

# 令和4年度延岡市立岡富小学校 学校評価

(4段階評価) 4 期待以上 3 ほぼ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本年度の重点目標 (1 確かな学力の定着 2 豊かな心の育成 3 健康・安全教育、食育の充実 4 家庭や地域に信頼される学校づくりの推進)

評価項目	評価指標	学校の自己評価結果のコメント	自己評価	学校関係者	関係者評価コメント
学力の向上	① 学習環境や教材を効果的に活用し、児童の学習意欲の向上に努める。 【指導内容の精選、ICT】	各教科においてデジタル教科書を活用し、児童が意欲的に学習することができるよう、授業改善に取り組むことができた。また、一人一台のタブレットを活用し、児童の興味・関心を引き出すことができた。今後さらに、ICTを活用できるよう、研究を深める必要がある。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員一人一人が学級の実態に応じて、デジタルを活用した学習に積極的に取り組んでいる姿が見られた。今後、一人1台タブレットを活用した授業の充実だけでなく、他の児童と関わりながら、児童一人一人が主体的に学習に取り組めるよう、更なる学習の充実を図ってほしい。</li> <li>○ 学力向上については、個々の成績や学校間の比較データがないため、判断できないが、授業参観等から一人一人の先生方が努力している様子が見える。</li> <li>○ 宿題や課題（自宅学習）は、学校から与えられるだけではなく、自主的に取り組むものであることを、保護者と共通理解を図り、家庭学習の充実に取り組んでほしい。</li> </ul>
	② 個に応じた指導や協働的な学習の充実に努め、わかる・できる喜びを実感できる授業に努める。 【めあて・まとめの設定、習熟、高学年一部教科担任制】	めあてとまとめの設定について、全職員で共通理解・共通実践を行った。また、高学年では、一部教科担任制を取り入れ、指導教科の専門性や授業力の向上を図り、児童の学力向上に努めることができた。			
	③ 授業をとおして基本的な学習態度と学習習慣の育成に努める。 【チャイム黙想・立腰指導・準備時間】	基本的な学習態度と学習習慣の育成を目指し、重点指導事項を各学級に配付し、全職員で共通理解・共通実践することができた。学期始めには特に意識して実践できるようにした。			
	④ 家庭との連携を行い、発達の段階に応じた家庭学習の充実に努める。 【家庭学習の在り方】	学習内容の定着を図るために、各家庭に「岡富っ子家庭学習」を配付し、家庭学習に取り組みさせている。また、各学年で週に1回「読書の日」を設定し、読書する習慣を身に付けることができるようにしている。家庭学習の習慣が身に付くよう、さらに、家庭との連携を図っていく必要がある。			
豊かな心の育成	① 生徒指導体制の充実に努め、「岡小みんなのきまり」に基づいた生活態度の育成に努める。 【8:00チャイム黙想、あいさつ、5つの無言の場】	各家庭に「岡小みんなのきまり」を配付し、児童と約束事を確認し、全職員で共通理解・共通実践を行った。加えて、「あいさつ・返事・心構え」を合言葉に基本的な生活習慣及び学習習慣を身に付けさせることを目指した。コロナ禍前のような「元気なあいさつが聞かれず残念」という声も聞かれていたが、少しずつあいさつも良くなってきている。また、きまりよい生活を送る児童が多いのは、学校と地域・家庭が連携して子どもたちを見守っている成果である。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校・地域・家庭との連携が少しずつ良くなってきている。</li> <li>○ あいさつ・返事・心構えの指導が浸透し、きまりを守ろうとする児童が、これまで以上に増えてきている。一貫した指導の成果である。地域においても、児童の気持ちの良いあいさつが聞かれている。</li> <li>○ 社会情勢（コロナ・戦争）などで、心に少なからず影響があると感じる。心の教育を今後も拡充してほしい。</li> <li>○ 支援が困難な家庭については、もっと地域を頼り、学校と地域の連携を深めることで解決できるのではないかと考える。</li> </ul>
	② 全教育活動をとおして、相手の立場を尊重する心の育成や人権意識の高揚に努める。 【丁寧な言葉遣い、人権教育の充実】	「～です。」「～ます。」「～さん」など、時と場、相手に応じた言葉遣いを子どもたちが使えるように、年度当初に全職員で確認して指導を行った。12月～1月には人権に関する授業を全学年で行い、2月に校内研修を行い、人権教育の充実に努めた。			
	③ 特別な支援の必要な児童に対する支援体制の充実に努める。 【不登校・特別支援ケース会議等の充実】	困り感をもつ児童について個別に協議を行い、関係機関と積極的に連携を図ることによって、支援体制を確立することができ、その結果、児童一人一人の状況や困り感に応じた支援ができた。一方、生活・家庭環境の多様化から、さらに、学校運営協議会・区長会・民生委員児童委員など地域の関係団体や児童相談所・基幹相談支援センターなど、外部機関との連携が必要である。			

健康・安全教育	① 体力向上プランをもとにした体育指導をはじめとして、体育に関する行事等を通して、体力の向上に努める。 【パワーアップ運動・チャレンジ5】	朝の会のパワーアップ運動や体育の時間にチャレンジ5に取り組んだ。また、水泳指導、運動会、なわとびと、時期に応じた運動について、コロナ禍でできることを考慮・精選し体力づくりを進めた。また、昼休みの外遊びを推奨し、たくさんの児童が元気に遊ぶ姿が見られるようになった。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナの集団感染が危惧される中で、感染症対策など、子どもの命を一番に考える取組がなされている。学校の自己防衛能力が高まっていることを、特に評価する。</li> <li>○ パワーアップ運動やチャレンジ5、外遊びの推奨など、体力向上の取組がたくさんなされており、岡小児童と他校児童の運動能力の比較データに非常に興味がある。</li> <li>○ 運動や食育については、コロナ禍で取組が難しいと思われるが、次年度以降、社会情勢を見ながら、更なる充実に向けてほしい。</li> <li>○ 下校時、青信号で横断歩道を横断中、2件の交通事故が発生したと聞いた。「信号を守っていても車は来るかもしれない」危機管理意識を高める指導が必要である。</li> </ul>
	② 健康教育を推進し、健康の保持増進に努める。 【早寝・早起き・朝ごはん運動、熱中症防止】	学期1回、家庭と連携し「生活リズムチェック表」を活用しながら、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣づくりに取り組んだ。また、結果を知らせ啓発も行った。熱中症対策として、プールサイドのテントの設置、水筒持参の推進や放送での注意喚起を行った。			
	③ 校内の安全管理に努めるとともに、安全指導の徹底を図り、危険予知能力と危険回避能力の育成に努める。 【防災教育、安全点検】	2ヶ月ごとに学校施設の安全点検を実施し、危険箇所等の修繕を行っている。学期1回児童による安全点検も実施し、児童の危険予知能力の育成にもつなげた。避難訓練や防災教育を通して、自然災害等への危機回避能力の育成に努めた。			
	④ 新型コロナウイルス対策（不織布マスクの着用・換気・三密を避ける・大声を出さない等）に努める。 【感染症対策】	毎日、家庭で検温・体温チェックを行っていただき、体調把握・管理に努めた。子ども達は、不織布マスク着用、三密回避、十分な換気、手洗い・うがい、消毒の習慣が身に付いてきた。			
学校力の向上	① 校内研修やOJTを推進し、授業力の更なる向上に努めるとともに、教師一人一人の人間力の向上に努める。 【OJT・相互参観、メンター方式の活用】	主題研修での理論研修や教員同士の相互参観を通して、ICTを活用した授業づくりについて理解を深めることができた。また、初期研修1年目・2年目の職員に、全員が関わり人材育成に取り組めるよう、メンター方式の活用等、指導体制づくりが課題である。	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 運動会において、若手教員がリーダーシップを発揮し、会を運営する姿が見られ、学校として、組織的に人材育成への取組の充実が見られ、感心した。</li> <li>○ 保護者や地域、関係機関への連絡が的確に行われ、十分な連携が図られていると感じている。参観日の回数を増やしたり、実施方法を工夫したりと、さらに連携を深めてほしい。</li> <li>○ 保護者の意見や要望は多々あるようだが、可能なことから少しずつ改善できるよう、取りくんでほしい。</li> <li>○ メディアや学校ホームページから、学校の様子がよく伝わってくる。さらに情報発信に努めてほしい。</li> </ul>
	② 校内の様子や積極的な発信や児童の作品応募を通して、保護者・地域からの理解に努める。 【ホームページ・学校だより・参観日等の充実】	学校便りや学級通信、新聞等のメディアを通して、児童の頑張っている姿や岡富小学校の良さを伝えることができた。また、学校ホームページの更新を積極的に行い、地域や保護者からの理解を得られるように努めた。 参観日は、新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、中止となることがあり、保護者との連携を深めるためにも、実施回数を増やすなど、参観日等の充実が必要である。			
	③ 地域人材や素材を積極的に活用し、社会に開かれた学校づくりに努める。 【学校運営協議会の活用、九州福祉保健大学との連携】	学校運営協議会では、児童の健全育成を目指し、「あいさつ」を核とし、学校・家庭・地域が一体となる取組について協議した。 また、九州福祉保健大学教授による水泳指導講習や学生の水泳学習サポートなど、水泳学習の充実を図ることができた。 さらに、延岡市キャリア教育センターとの連携により、全学年で地域人材を活用した「よのなか教室」を実施することができた。			

### 【 次年度に向けて 】

- 「学力の向上」：個に応じた指導や協働的な学習の充実に向け、「分かる・できる」喜びを実感できる授業づくり（具体物・ICTの活用、学び合い、体験活動）を行う。また、宿題や課題（自宅学習）において、タブレットの持ち帰りも含め、学年の発達段階に応じた家庭学習指導の充実を目指す。
- 「豊かな心の育成」：児童一人一人の悩みに対応するために、今後も悩みアンケートの実施や日々の対話や観察等を丁寧に行う必要がある。また、児童間の問題については、丁寧な聞き取りを行い、その日のうちに解決できるようにする。教育相談週間や月1回の教育相談日を設けるなど、子どもが落ち着いて学校生活を送ることができるようにする。
- 「健康・安全教育」：各種健診結果を保護者に確実に伝え、むし歯を初めとする治療率を向上させることが必要である。また、体力づくりの一環として、今後も外遊びを推奨し、毎日元気に過ごせる喜びを味わえるようにしたい。さらに、新型コロナウイルス感染症については、国の指針に沿った対策に努める。
- 「学校力の向上」：令和5年度より、延岡市の全ての小中学校において、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が導入される。学校と家庭・地域が連携し、共通の目指す児童像を設定し、それぞれが主体的に児童を育成できるよう共通実践し、地域で子どもの成長を支えられるよう、学校運営協議会の更なる充実を図りたい。